

小グループにおける福音の分かち合い

◆ 初めの祈り（または聖歌）

「聖霊、来てください。
いつも、聖書の言葉を通して、私に語ってくださること、
神の愛を示し、正しいことを教え、励まし、
導いてくださることを感謝いたします。
神の語られる言葉を理解することができるよう、
私の心を開き、理性、感覚、記憶を照らしてください。
理解したことを実行し、愛に成長することができますように、
私の心をあなたに対する信頼と愛で満たし、力付けてください。
私たちの主、イエス・キリストによって。アーメン。」

I. 第一段階 印象深い言葉の選択

- A: 朗読**：一人の参加者が与えられた聖書の箇所を朗読します。他の人は沈黙の内に読みます。
- B: 沈黙**（3分ほど）：参加者は、沈黙の内にその箇所をゆっくり読みながら、特に心に強く残った印象深い言葉や句、または文章を選びます。
- C: 分かち合い**：推進係に招かれて、皆で印象深い言葉や句、または文章を分かち合います。

参加者は何も説明を入れることなく、印象深い言葉や句、または文章とその節番号を読み上げます。（例えば：「心に一番強く響いたのは、（一ヨハ1章の）5節の「光」ということばでした。」など）ひとりの人が話した後に短い沈黙の時間をおきます。

II. 第二段階 神のことばやメッセージの聴き取り

- A: 朗読**：推進係の招きに従って、前と違う参加者が同じところを再び朗読します。他の人は沈黙の内にそれを聴きます。（一人一人が順番に一節ずつ読むこと、すなわち輪読することもできます。）
- B: 沈黙**（5分ほど）：沈黙の内に、一人一人に語りかけている神のことばやメッセージを聴き取るように努めます。

聖書の箇所や他の人の（印象が強かった言葉や句、または文章についての）分かち合いを聴くことによって、何か自分にとって意味深いことや、自分の体験を示すことや自分の人生を照らすことば（導き）が現れるでしょう。それは、その人のために与えられた神からのことばやメッセージとして受け入れます。

C: 分かち合い：推進係は、一人一人に与えられたメッセージを分かち合うように招きます。

この分かち合いは他人やグループのことではなく、その人個人のことではなければなりません。また、説教、つまり他人が何をすべきであるかという話にならないように注意する必要があります。(なるべく、「わたしたち」とか「皆」や「彼・彼女」ではなく、「わたし」ということばを使うようにしましょう。)ここでは、自分自身の体験を分かち合うことが何よりも重要です。
教皇パウロ六世は次のように教えています。「自分の信仰の体験を他の人と分かち合う以外に、福音を伝える方法があるでしょうか。」

III. 第三段階 神のことばやメッセージへの応え

A: 朗読：別の参加者が再び同じ箇所を朗読します。他の人は、沈黙の内に読みます。

B: 沈黙：しばらくの間沈黙の内に、一人一人が心の中で祈ります。

神のことばが約束であったならば、信頼を表す祈りによって、それに応えます。与えられたメッセージによってこの祈りは、感謝、回心、お願い、賛美などになりえます。

C: 分かち合い：沈黙の祈りの後に、参加者は、神から与えられたことばやメッセージに対して自分が応えた祈りを皆と分かち合います（声を出して祈ります）。

◆ 終わりの祈り（例えば「主の祈り」、または聖歌）